

2025-26年度 加藤会長テーマ -世のため、人のため-

第3203回例会 令和8年1月27日(火) 天気:晴 No. 20



会長 / 加藤 典男 幹事 / 本多 淳

クラブ会報委員 谷崎直樹 / 羽佐田芳和 / 神谷明

例会日:火曜日 12:30 例会場:西尾コンベンションホール

事務局:西尾市永楽町 3-45 西尾信用金庫中央支店内 204

TEL:0563-54-7770 FAX:0563-54-7050 URL:<https://www.nishio-rotary.org>

2025-2026 年度

RI テーマ

よいことの
ために
手を取りあおう



【本日のプログラム】

司 会 杉浦竜基例会運営委員長 斉 唱 「我等の生業」
 スピーカー 西尾市長 中村 健 氏 『4年間の市政運営の方針について』
 ビジター 春日井RC 中川 健 君
 食 事 花のれん

【会長挨拶】



本日は「大富豪の教え」についてお話します。世の中にはビル・ゲイツやザッカーバーグ、ジョージ・ソロス、スターバックスのハワード・シュルツなど、数多くの大富豪がいますが、その多くがユダヤ人です。彼らは代々伝わる「大富豪の教え」を守り、一族から決して貧困者を出さないという強い信念を持っています。特にアメリカなどでは、ユダヤ系の人々が経済や政治の強固な基盤を握っています。なぜ彼らがこれほどまでの成功を収めるのか。その鍵は独特の「子供教育」にあります。ユダヤの家庭では、子供が生まれると専用のカリキュラムが生まれ、専門の教育係が大人になるまで徹底的に指導を行います。ユダヤ人は約3,000年前からイスラエルに住み、厳しい戒律を持つユダヤ教を確立しましたが、バビロニアやアレクサンダー大王、ローマ帝国に征服され、長きにわたり奴隷や植民地としての苦難を味わいました。その後、キリスト教の爆発的な普及により、「主を殺した民族」として迫害の対象となります。土地を持つことを禁じられ、商業や貿易、金貸しに従事せざるを得ず、2,000年もの間、国を持たず流浪の民であった彼らにとって、唯一信じられるのは「知恵」と「お金」でした。そんな彼らが子供たちに教える「5つの教え」があります。

1つ目は「お金の循環」です。幼稚園児の頃からお金の話をし、お小遣いを三分割し、好きなものを買う分、将来のために貯める分、貧しい人に寄付する分に分けさせます。2つ目は「知見を買え」です。物ではなく知見を買え、お金は学ぶための道具であり、自分自身に投資せよと教えます。3つ目は「質問の質」です。自分の考えを持ち、自分の考えに間違いはないかを問う聞き方を教えます。4つ目は「失敗を共有する」ことです。成功談よりも失敗談を重視し、失敗から何を学んだかを一族の財産とします。5つ目は「教育の継続性」です。確立されたカリキュラムとして代々受け継がれ、幼少期に学んだ知恵は一生揺るがない「武器」となります。私たちも、見栄や欲にお金を使うのではなく、次世代に繋がる知恵を磨いていきたいものです。

【委員会報告】

〈出席委員会〉岩瀬 淳治委員長

本日の出席数 55名 欠席数 14名 出席率 79.71%

〈スマイルボックス委員会〉辻村 敏晃委員長

春日井RC 中川健君 本日は宜しくお願い致します。勉強させていただきます。

加藤典男君 春日井ロータリー中川様、ようこそ西尾ロータリーへ。

本多 淳君 春日井ロータリークラブ中川健様、ようこそ西尾ロータリークラブへ。

田中正規君 中村西尾市長さん、西尾の未来の卓話ありがとうございます。

三浦康彦君 中村健市長様、ようこそ西尾RCへ。楽しく拝聴させていただきます。

伊藤富義君 本日は中村市長の市政方針、大変期待して拝聴します。

榊原康正君 ようこそ中村市長。

羽佐田芳和君 中村西尾市長様、本日卓話宜しく願います。

鳥山欽示君 西尾病院様にご大変お世話になりました。

浅岡直幸君 足立さん、ありがとうございます。今後もご指摘ください。

【卓話】

西尾市長 中村 健 氏 『4年間の市政運営の方針について』



世界各地で分断が進み、価値観の違いが表面化する時代となっています。国内においても、経済環境や社会構造の変化により、地域社会は大きな転換点を迎えています。こうした状況の中で行政に求められるのは、どちらか一方の意見に偏ることなく、多様な考え方を受け止め、対立を乗り越えていく姿勢です。物事を単純に白か黒かで判断するのではなく、複数の視点から捉え、より良い形へと統合していく考え方を、市政運営の基本に据えていきます。目指すのは、夢や希望を持つことができ、市民一人ひとりが前向きな気持ちになれる西尾市です。長引く閉塞感の中にあっても、夢や希望は人の行動を変え、社会を前に進める原動力になります。これまで市政の中で大切にしてきた「ワクワク感」という視点を今後も軸とし、市民が新しいことに挑戦しようと思える空気を、まち全体に広げていきたいと考えています。

そのためには、「できない理由」を並べるのではなく、「どうすればできるのか」を考える姿勢が欠かせません。挑戦には失敗がつきものですが、失敗を恐れて何もしないことこそが、地域の活力を失わせてしまいます。行政自らが挑戦する姿勢を持ち、市民や事業者の新たな取り組みを後押しする存在でありたいと考えています。一方で、挑戦を支えるためには、安心して過ごせる「居場所」の存在が重要です。家庭や職場、学校だけでなく、地域の中に自然に集える場所があることは、人の心を支え、前向きな行動につながります。人と人とのつながりが希薄になりがちな今の時代だからこそ、誰もが関われる居場所づくりを進め、孤立を生まない地域社会を目指していきます。

また、人口減少や少子高齢化が進む中で、市政運営の在り方そのものも見直す必要があります。これまでのように事業を拡大し続ける行政運営から、限られた人材や財源の中で成果を最大化する「市政経営」への転換が求められています。コスト意識を持ちながら、市民にとって本当に必要なサービスは何かを見極め、将来にわたって持続可能な行政運営を進めていきます。

公共施設の再配置や事業の見直しなど、避けて通れない課題もあります。これらは現在の市民生活だけでなく、将来世代への責任という視点からも重要な取り組みです。一方的に進めるのではなく、丁寧な説明と対話を重ね、市民の理解を得ながら、時間をかけて合意形成を図っていきます。

教育については、人づくりこそが地域の未来を支える最も重要な基盤であると考えています。経済的な支援に加え、自ら考え、判断し、挑戦し、失敗から学ぶ力を育む教育を推進し、変化の時代を生き抜く力を備えた人材の育成に力を注いでいきます。

さらに、中心市街地の活性化をはじめとする地域づくりにおいては、計画や制度だけでなく、現場に足を運び、人の声を聞くことを何より大切にしていきます。人との信頼関係を丁寧に積み重ね、当たり前のことを当たり前に行う「凡事徹底」を続けることが、市政への信頼につながると考えています。こうした一つ一つの取り組みを着実に積み重ねることで、西尾市の持続的な発展と、誰もが誇りを持てるまちづくりを進めていきます。



PHF・PHF+2 認証バッジ・ 認証状授与



1/18(日) にしおマラソン 応援ボランティア

